

# 平成31年度 知能情報工学実験演習2 離散構造モデリング

## 第2回演習資料

坂本比呂志 平田耕一 芳野拓也

情報工学部 知能情報工学科

# 前回のプログラムの問題点： RUNの長さに強く依存する

**run-length圧縮：**

同一文字の連続(run)をその長さ(length)で置き換える圧縮法

AAAAAAA → A9

AAAAAAAABBBBB → A9B5

AAAAAAAABBBBBCCCCC → A9B5C6

入力にrunが含まれないときは圧縮できない(それどころかデータサイズが増加してしまう)

ABCDABCD → A1B1C1D1A1B1C1D1

**汎用的なrun-length圧縮：**長いrunがないデータでもうまく圧縮したい

## 4. 文字列のソート

# 整数のソート

## (例)バブルソート

- ・array[N]に格納された整数をソートする
- ・ $k++$ しながら  $array[k+1] < array[k]$  ならば両者を入れ替える
- ・このループが終了するとarray[N]に最大値が入っている
- ・以上の手続きをarray[N-1]に対して同様に繰り返す

# バブルソートのサンプルプログラム

```
void BubbleSort(int Data[], int n){  
    int i, j, tmp;  
    for(i = 0; i < n - 1; i++){  
        for(j = n - 1; j > i; j--){  
            if(Data[j-1] > Data[j]){  
                tmp = Data[j-1];  
                Data[j-1] = Data[j];  
                Data[j] = tmp;  
            }  
        }  
    }  
}
```

# 文字列のソート

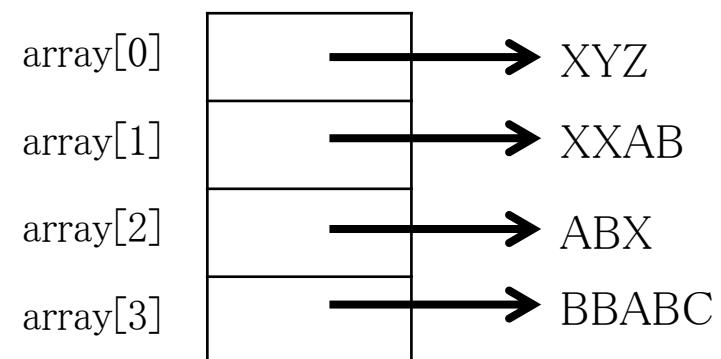
文字列のソート = 整数型ポインタ配列のソート

- ・整数配列array[ ]の各要素array[k]がk番目の文字列へのポインタを表していると考える
- ・整数のソートでは array[k] と array[k+1] の大小比較を行ったのに対して文字列のソートでは

array[k] が指す文字列 s1 と array[k+1] が指す s2 を比較する

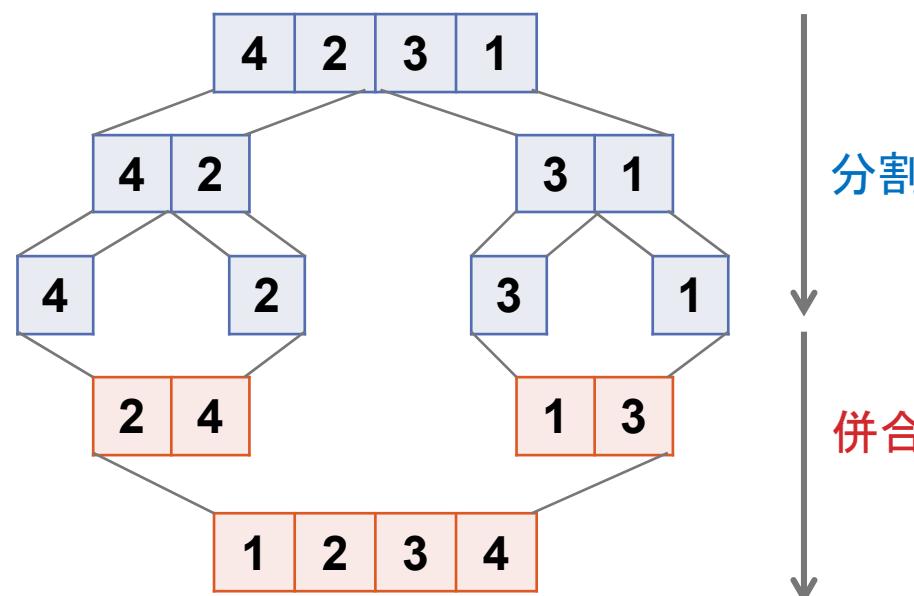
- ・文字列の大小は長さではなくアルファベットで比較 ABBB < XY
- ・文字列の大小比較はstrcmp(s1, s2)

$$\begin{cases} s1 < s2 \text{ のとき } \text{strcmp}(s1, s2) < 0 \\ s1 = s2 \text{ のとき } \text{strcmp}(s1, s2) = 0 \\ s1 > s2 \text{ のとき } \text{strcmp}(s1, s2) > 0 \end{cases}$$



# 高速なソートアルゴリズム マージソート

- ・整数配列を2分割する:
- ・arrayが分割できない(要素がひとつ)ならば何もせずにリターン
- ・要素が2つならその大小を比較して必要なら入れ替える
- ・要素が3つ以上ならそれをさらに二つに分割して再帰的に以上を繰り返す



# マージソートのサンプルプログラム

```
void Msort(int Data[ ], int temp[ ], int left, int right)
{
    int mid, i, j, k;

    if(left >= right)
        return;

    mid = (left + right)/2;
    Msort(Data,temp,left,mid);
    Msort(Data,temp,mid+1,right);

    for(l = left; l <= right; i++)
        temp[i] = Data[i];

    i = left;
    j = mid + 1;
    k = left;

    while(i <= mid || j <= right){
        if(j > right || (i <= mid && temp[i] <= temp[j])){
            Data[k] = temp[i];
            i++;
        }else{
            Data[k] = temp[j];
            j++;
        }
        k++;
    }
}
```

# マージソートのサンプルプログラム VER.2

```
void Msort(int Data[ ], int temp[ ],
           int left, int right)
{
    int mid, i, j, k;

    if (left >= right)
        return;

    mid = (left + right) / 2;
    Msort(Data, temp, left, mid);
    Msort(Data, temp, mid + 1, right);
```

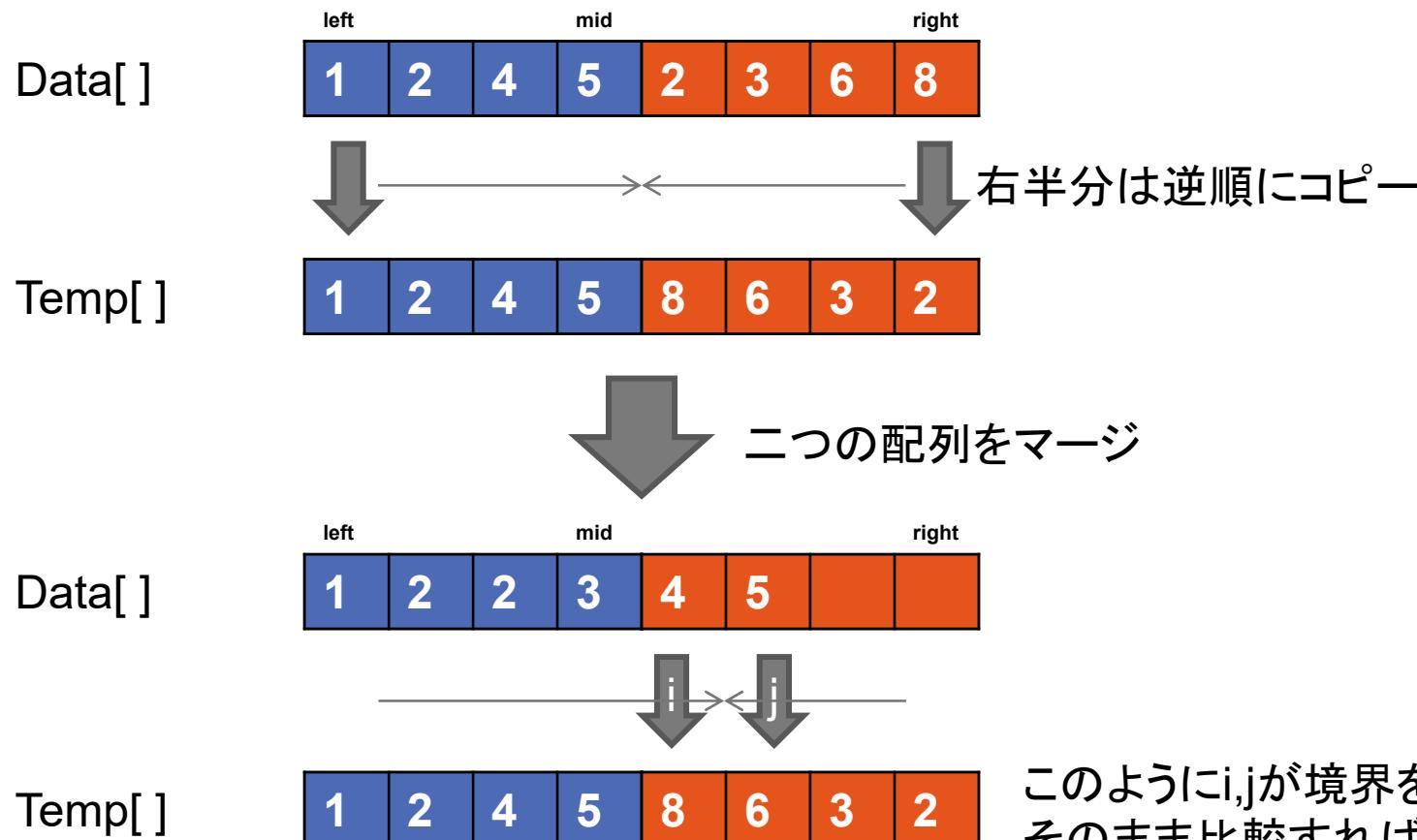
```
for (i = left; i <= mid; i++)
    temp[i] = Data[i];
for (i = mid + 1, j = right; i <= right; i++, j--)
    temp[i] = Data[j];

i = left;
j = right;

for (k = left; k <= right; k++){
    if (temp[i] <= temp[j]){
        Data[k] = temp[i];
        i++;
    }else{
        Data[k] = temp[j];
        j--;
    }
}
```

このjが減少していることに注意

# jが減少していることの意味



このようにi,jが境界を超えてそのまま比較すればよいのでプログラムのコードが短くて済む

# 課題3

入力ファイル(Test3.txt)の文字列をソートして出力ファイルに書きだす  
プログラムを作成せよ. ソートアルゴリズムはバブルソートでよい.  
なお、mysortの引数は適当に変更してもよい.

# 課題3の提出方法

提出するもの

- ・**Makefile**
- ・**func.h**
- ・**main.c**
- ・**check.c**
- ・**mysort.c**
- ・**Test3.txt** (オリジナルデータ)
- ・**Test3\_sorted.txt** (**Test3.txt**をソートしたファイル)

これらをフォルダ“kada3\_学籍番号”にまとめて、ZIPで圧縮

(アドレス) [experiment@donald.ai.kyutech.ac.jp](mailto:experiment@donald.ai.kyutech.ac.jp)

(件名) **kada3\_学籍番号**

# 課題4

課題3の内容をマージソートによって実現しTest4.txtをソートせよ.

※課題3の内容を保存して作成せよ.

※課題4を提出すれば、課題3を提出する必要はないものとする.

# 課題4の提出方法

提出するもの

- ・**Makefile**
- ・**func.h**
- ・**main.c**
- ・**check.c**
- ・**mysort.c**
- ・**Test4.txt** (オリジナルデータ)
- ・**Test4\_sorted.txt** (**Test4.txt**をソートしたファイル)

これらをフォルダ“**kadai4\_学籍番号**”にまとめて、ZIPで圧縮

(アドレス) **experiment@donald.ai.kyutech.ac.jp**

(件名) **kadai4\_学籍番号**